令和8年度

和田島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

・学習規律の確立と、基礎基本の定着
・主体的・意欲的に学習に向かう態度の育成
・ICT機器を効果的に活用した授業づくり
・読書の習慣化

校長

上田　剛

学力向上推進員

萩原　結衣

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算などの学習に意欲的に取り組む児童が多い。 ○単純な計算や漢字など、基礎的・基本的な知識・技能については、繰り返しの学習を通して定着している児童が多く見られる。 ●学習した知識を活用する力に課題が見られる。 ●教師や友達の話を最後まで聞くことが苦手な児童がおり、聞いて理解する力に課題が見られる。	・学習規律を守り基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。 ・習得した知識を、生活場面や他教科の学習に関連付けて活用できる力を育てる。 ・よい話し方、よい聞き方を知り、身に付ける。	・反復学習やICTを活用した宿題の充実 ・聞き合いの具体的な姿を提示し、聞く姿勢そのものを継続的に価値付けながら指導する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習発表会や意見発表など、発表する活動に積極的な児童が多い。 ○友達にインタビューしたり自分の考えを伝えようとしたりすることができる児童が多い。 ●友達の意見と自分の意見を比べたり、教師の言葉を聞いて自分の考えを深めたりする力が育っていない児童がいる。	・自らの意見、考えを持ち、伝え合うことで友達の意見と自分の意見を比較・検討し、よりよい考えを見つけ出すことができるようにする。	・思考ツールなどを利用し、一つのことから多くのことを考えるなど、考えを深める機会を増やす。 ・ペア・グループでの学習機会を増やし、振り返りの時間を持つことで、自らの変容や伝え合うことのよさに気付けるようにする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○好奇心旺盛で、体験活動を伴う学習に意欲的に取り組むことができる。 ●自分から課題を見つけたり、粘り強く取り組んだりする力に課題がある。 ●互いの話を聞き合い、自分の考えを深める姿勢は身に付いていない。	・自分の得意分野を伸ばしたり、苦手分野を復習したりする。 ・困難な課題に対して粘り強く取り組むことができる。 ・読書に親しみ、自ら学ぶ楽しさに気付くことができる。	・自主学習ノートを活用したり、家庭読書の日を設けたりし、学習への意欲を高める。 ・ICTを活用したり、自分で課題を設定したりすることで自分のペースで学習を進めたり、復習したりできるようにし、自ら学ぶ楽しさを味わえるようにする。			